

カトリック

広島教区報

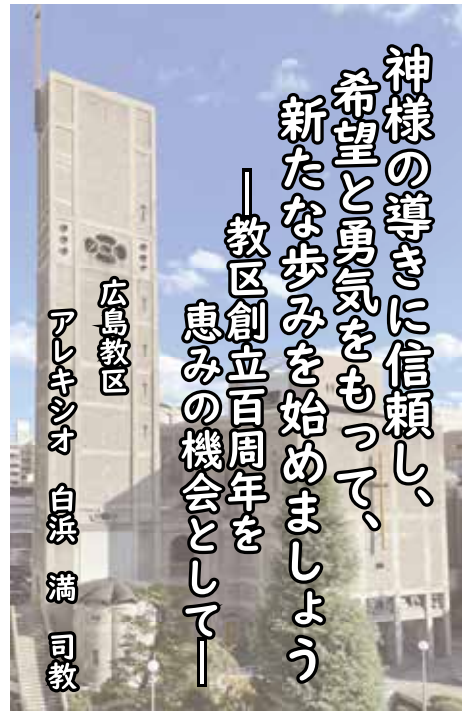
No. 131

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017



広島教区
アレキシオ 白浜 満 司教



白浜 満 司教
徳山教会 司教公式訪問
(2022年12月18日) でのミサの様子

主の降誕と新年を迎え
皆様からの豊かな恵みを
皆様の上に
お祈りいたします

教区創立百周年を

好機として

旧年中に、教区の皆様か
らいただいた数々のお祈り
とご支援に対し、心から御
礼申し上げます。新型コロナ
ナウイルス感染症の影響が
長引く中、昨年は、ロシア
軍によるウクライナ侵攻の
戦争が重なり、大きな不安

と混乱を伴う1年となりま
した。歴史的に見て、わた
したちは現在、危機的な状
況の中を歩んでいるのでは
ないでしょうか。希望と勇
気をもって、み心にかなう
新しい社会を築いていける
よう、神様の導きと助けを
願いましょう。

ご存じのように、広島教
区は、いよいよ今年5月4
日に教区創立百周年を迎え
ます。これに先立ってわた
したちは、昨年の9月18日
に開年ミサを行なって、
「教区創立百周年」を祝う
1年に入りました。そして
前回の教区報で紹介した記
念行事や取り組み等を実
施して、今年の「教区の
日」(9月18日)の閉年ミ
サまでの期間をともに過ご
していきます。「教区創立
百周年」を好機として、こ
れまでの教区の歩みを振り
返り、教区の将来を見つめ
て、今、わたしたちにでき
ることを大切にしながら、

司教メッセージ・じゃけえのう

教区の動き

海峡からの風・J-CaRM・教区百年史

地区便り

青少年・ひと粒

1〜3面
4〜6面
7〜9面
10〜11面
12面

じゃけえのう

コロナのパンデミックと戦
争の脅威に病んでいる世界の
中で、キリスト者として生き
るにはどうしたらよいのか？
毎日あまりにも悲惨なできご
とが起きるので、私たちの小
さな行ないなど一体どんな意
味があるのだろうか？と無力感
に陥ります。

今、私は高齢者住宅でお世
話になっていますが、感染症
対策で、外出禁止、集会禁止
のうちにおります。ロックダ
ウンが始まったころは、施設
内で修道会の会員や信徒の方
たちとオンラインでミサに預
かる喜びがありました。この
数か月は集会が禁じられて
おり、配信ミサに参加するこ
とも叶いません。そんな時

る機会に恵まれました。映画
は81歳〜86歳の高齢の司祭、
シスターたちが核兵器の危険
性を訴えるために、アメリカ
テネシー州にある米国最大の
核兵器貯蔵庫にフェンスを
破って侵入し、核兵器の存在
に警告を発しているというも
ので、平和活動家としての強
い意志と温かい人間愛に感動
しました。この映画に触発さ
れて憲法9条の活動をしてい
る友人と宗教を超えて分かち
合っています。

「じゃけえのう」とは広島弁で
「だからね」という意味。

広島教区主催で「シスターと
神父と爆弾」というドキュメ
ンタリー映画が上映されるこ
ととなり、幸いそのDVDを
貸し出されることを知り、施
設の特別許可を得て、鑑賞す

オンライン上の鞆町教会の
ミサで侍者として奉仕してい
る小学生が8月6日の平和の
集いで子ども代表でメッセー
ジを発表した姿を見て、とて
も嬉しく、私の知らないこと
ろで、平和の種は蒔かれ、
育っていることを思い、シメ
オンとアンナの心境で未来へ
の大きな希望を感じました。
(援助修道会
シスター 松本卓子)

新たな歩みを始めていききたいと思えます。

【司教書の公布】

教区創立百周年を迎える前に、広島教区では、第3回目となる教区代表者会議（教区シノドス）が、2会期（2021年11月23日・2022年2月23日）にわたってオンライン形式で実施され、教区の新たな歩みを促す恵みの機会となりました。この教区シノドスを



徳山教会ミサ堅信式の様子

優先課題として要約された「10のテーマ30のチャレンジ」を推進していくため、昨年6月11日の教区宣教師評議会で「シノドス対応調整チーム」の規約が採択され、20名のメンバーから成る同チームが立ち上げられました。現在、月に一度のペースでオンライ

通して、皆様からいただいた提言をもとに、わたしは昨年復活祭に、『ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう』という表題の司教書を公布しました。その中で、おもに三つのことを打ち出しています。

- ① 教区の宣教司牧目標（2024年からの10年間）
- ② 教区の優先課題（10のテーマ30のチャレンジ）
- ③ シノドス対応調整チームの設置

「シノドス対応調整チーム」

ン会議を行なっています。優先課題である「10のテーマ30のチャレンジ」に関する既存の委員会や団体等と連携しながら、徐々に課題を整理し立案化して、教区の宣教師評議会に提出していく準備がなされています。また、その途上で、教区シノドスの五つの部会（福音宣教、平和、多文化共生、協働、養成）を展開する形で、オンラインによる五つの「ネットひろば」が開設され、すでに各「ひろば」が1〜2回ほど実施されています。

「オンライン」という新たな絆

では、感謝の祭儀（ミサ）の場合にも、秘跡を授ける場合にも、さらにその他の活動においても、兄弟姉妹が「集会」（対面）することを基本としてきました。それは、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」（マタイ18・20）というイエス様の約束に基づくものです。聖霊という「霊的な絆」で結ばれた集会の中に主イエス・キリストがともにおられ、このキリストを頭とする神秘的な交わりである「教会」を通して、キリストと聖霊が働かれると、わたしたちは理解しています。そこに、現代では、場所が違っていても、同じ時間に、オンラインでその姿を見ながらつながることができるようになりました。わたしたちは、これまで教会が大切にしてきた「集会」を、必要不可欠で中心的な軸としながらも、その補完的な手段として、オンラインによる「新たな絆」を教会の諸活動に調和させていく方法を、一緒に

【教皇フランシスコの呼びかけ】

模索していきたいと思えます。その際には、この「新たな絆」を活用できない兄弟姉妹がいることも十分に配慮する必要があります。

世界代表司教会議（世界シノドス）の歩みに合わせて

【教皇フランシスコの呼びかけ】

教皇フランシスコがその開催を要請した「ともに歩む教会へ」交わり、参加、そして宣教」というテーマの世界代表司教会議（世界シノドス）第16回通常総会には、世界の司教団だけでなく、初めて神の民全体がその準備に参加するという新たな手法が取り入れられました。そして、世界のすべての教区に質問票が届けられ、2021年10月中旬〜2022年8月中旬にかけて、10の質問について意見を交換し、分かち合いを行なって、その要約文書を提出しました。広島教区の場合は、教区シノドスが同時に並行して行なわれていたこともあって、教区シノドスが世界シノドスのよい

準備となり、また、今後の教区の方針を考える助けとなりました。昨年、復活祭の司教教書の中で打ち出した「ともに歩むあなたたかさのある教会をめざそう」という2024年度以降の教区の宣教司牧目標と「10のテーマ30のチャレンジ」は、世界シノドスのテーマを、広島教区において具体化していくものです。

【大陸別シノドス】

世界の各教区から提出された文書は、大陸ごとに集約され、昨年の10月下旬に、「あなたの天幕に場所を広く取りなさい」（イザヤ54・2）という作業文書が作成されました。この作業文書は、日本カトリック司教協議会（カトリック中央協議会）のホームページに邦訳が掲載されていますので、小教区や修道院などで分かち合いのために活用していただければと思います。この文書に基づいて、アジアの司教協議会連盟（FABC）の主催で、間もなく2月23日〜27日に、タイのバンコクにおい

て、アジアのシノドスが開催されることになっていきます。日本の教会からも、日本カトリック司教協議会の会長である菊地功大司教様と、司祭・修道者・信徒の中から2名ずつが代表として参加することになっています。わたしたちも祈りをもつて、このアジアのシノドスを支えていきたいと思っています。

【世界シノドス】

今年は大陸別の準備シノドスが行なわれる年ですが、その最終段階として、



2023年10月と2024年の10月の2会期にわたって、バチカンで世界シノドスが開催される予定です。わたしたちも、「ともに歩む教会へ」交わり、参加、そして宣教」という世界シノドスのテーマと、「ともに歩むあなたたかさのある教会をめざそう」という教区の宣教司牧目標を重ね合わせながら、教皇フランシスコが呼びかけている「ともに歩む教会」へと内的刷新を遂げていければと願っています。世界シノドスの成果

となる総合的文書は、おそらく2025年に公表されるのではないのでしょうか。2025年は、カトリック教会において25年毎に開催されてきた通常の「聖年」に当たる年です。この聖年中に、21世紀のこれか

らの教会の歩みを示す貴重な指針が打ち出されていくことになるのではないかと思います。

結びに

教皇フランシスコが来日

された2019年11月以後、新型コロナウイルスの世界的な大流行に見舞われ、未曾有の困難に遭遇し、それがまだ続いています。世界の国々が互いに助け合って、この自然の脅威を乗り越えていこうとする機運が高まっていた中で、昨年、ロシア軍によるウクライナ侵攻という戦争が起こり、2国間だけではなく世界の国々に、新たな分裂と混乱が生じてしまいました。世界は今、第二次世界大戦以後の最大の危機に直面しています。世界シノドスのための大陸別の準備段階に入る今年に、「あなた天幕に場所を広く取りなさい」（イザヤ54・2）というテーマが呼びかけていることは、他者を理解し、受け入れ、ともに住む家族となっていくことです。こ

れは、教皇フランシスコが2020年10月に公布した回勅『兄弟の皆さん』の中で示した社会的友愛を、それぞれの大陸、それぞれの地域において、具体的に実現していくよう促すものです。

回勅『兄弟の皆さん』（230）にある、教皇フランシスコの言葉を心に刻みたいと思います。「わたしたちの社会は、各人が、各社会集団が、まさに家にいるような安らぎを感じる時に勝利するのです。家庭では、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、子どもたちは打ち解けています。だれも除外されません。……家では、皆で共通の計画に貢献し、皆で共通の益のために尽くします。だからといって個を否定するのではなく、むしろ個を支え、励ますのです。けんかはしますが、変わらないものがあります。家族のけんかは後で仲直りできます。一人ひとりの喜びや悲しみは、皆のものです。そうなのです。家族であると

教区の動き

「2022年度(第二回) 広島司教区宣教司牧評議会開催」

は、こういうことなので、政治的に対立する人や近所の人に、「子ども、妻、夫、父親、母親に注ぐのと同じまなざしを向けることができたら、どんなによいでしょう。自分たちの社会を愛していますか。それとも社会はどこか縁遠いもの、得体のしれないもので、自分とは関係ない、自分は属していない、自分には責任のないもの、ままなのでしょうか。」

教区創立百周年を祝っているわたしたちは、世界の教会の動向とその大きな視野の中で、教皇フランシスコが回勅『兄弟の皆さん』の中で示している社会的友愛、また、「あなたの天幕に場所を広く取りなさい」(イザヤ54・2)という大陸別のシノドスのテーマをよく黙想しながら、「教区シノドス」後の新たな歩みを、希望と勇気をもって進めていきたいと思えます。教区の兄弟姉妹の皆様のお祈りとご協力を、今後ともよろしくお願いいたします。

去る12月10日(土)、2022年度第2回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、既决定着したリモート会議形式で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の全25人が出席した。まだまだ新型コロナウイルス感染者数が増える状況ではあるが、メイン会場の広島カトリック会館多目的ホールには出席評議員の過半数の十九人が集い、その他の評議員六人はリモート接続して予定通り会議を開始した。

教区宣司評は、白浜司教の挨拶と祈りに続いて次の報告事項から始まった。報告は、まず「教区創立百周年記念行事実行委員会」から、活動報告と今後の予定についての説明があった。続いて、教区の4つの優先課題「召命促進」「津和野の証し人の列聖」「青少年育成」「教区共通カテキズムの作成」に関して、各委員会から現在の状況についての報告があった。

続いて、平和の使徒推進本部の傘下で司教教書の具体的推進をサポートする「シノドス対応調整チーム」から、現在までの活動報告、『10のテーマ・30のチャレンジ』の各項目の進捗状況についての報告があった。

報告事項の最後に、白浜司教から「世界シノドス」の準備の状況と、「ロレンソ会」が「カテキスタ・ロレンソ会」という名称に変更されたお知らせがあった。

議題については、次の議案に関する説明と出席評議員による評議が行なわれた。

議題は、まず『平和行事実行委員会会則』(案)について、これまでの経緯と今まで無かった会則の必要性について、本年度の実行委員長である大西神父から説明があった後、会則(案)の採決を行ない、全員賛成

により、同日、会則の施行日となった。

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

次の議題は、2023年度の教区テーマ「わたしの召命とあかし」に関する取り組み案について、平和の使徒推進本から次の提案が出された。

①小冊子「『わたしの召命とあかし』」の作成を期待して制作する予定。
②2023年11月23日、『教区ひろば』の開催について。
「わたしの召命を考えるため」のイベントとして開催したい。
同日、派遣ミサの中で、2023年の金銀祝をお祝いしたい。

左記の提案が出された後、『教区ひろば』の開催と、金銀祝のお祝いについて決議を行ない、全員賛成で可決した。詳細は今後検討することのこと。

次の議題は、白浜司教から百周年の記念として全信徒にプレゼントする予定で作製する『信徒手帖(案)』について、今回の教区宣司評で内容に関する意見収集と、教区固有の祈り、教区で共有する祈願日についての提案が出された。

内容に関しては、既に司祭団からの意見収集と作製することの理解を得た上で提案されたもの。

教区固有の祈りについては、「『平和の使徒』となるための祈り（一部修正）」と「『ともに歩むあたたかさのある教会』を願う祈り」の2つについて、全員賛成により教区固有の祈りとなった。

また、教区で共有する祈願日については、復活節第四主日（世界召命祈願の日）を「司祭・修道者の召命の祈願日」に、年間第三主日（神のみことばの主日）を「カテキスタの祈願日」にすることに、全員賛成により教区で共有する祈願日となった。2つの祈りと祈願日は、『信徒手帖（案）』に入ることになる。

今後、最終の修正を行なった後、白浜司教の希望は2023年復活祭あるいは創立百周年（5月）に発行、配布したいとのこと。

続く議題は、白浜司教からG7広島サミット（2023年5月）の開催期間に合わせて、5月14日から21日を『広島サミットのための祈りの週間』とし

て、教区全体で祈りを捧げたいとの提案が出された。本提案については、今後、実施可否も含めて平和の使徒推進本部で検討することと決議し、全員賛成で可決した。

教区宣司評の後半は、各地区・協働体・修道女連盟からの報告があった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに3時間の教区宣司評を閉会した。

なお、次回（2023年度第1回）教区宣司評は、6月10日に開催予定。

シノドス対応調整 チームより

このチームは2020教区代表者会議後に発出された司教宣言を推進するために、広島教区各組織、活動団体との調整役を行なうチームです。代表の瀧井神父、他に林神父と9名の信徒で構成され、顧問を白浜司教が務めています。チーム会議は毎月リモートで行なわれ、今までに以下の3つのテーマについての意見

交換や議論を行なってきた。

- (1)「10のテーマ・30のチャレンジ」の推進
- (2)ネットひろばの推進
- (3)ネット上で私たちをつなぐ新しい仕組みの構築

これらのテーマを話し合う中で将来の広島教区の在り方をメンバーで熱く語り合い、いつも2時間があつという間に過ぎていきます。どのように私たちの信仰を育てていくのか？、コロナ禍でどのように信徒同士がつながっていくのか？、少子高齢化で教会はどうなる？、外国籍の方々との共生は？、次世代を担う若者の養成は？など、私たちが取り組むべき課題は枚挙にいとまはありません。難しい課題もあります。一つ一つ丁寧に教区の皆さんと手を携えながら、進んでいきたいと思っております。活動の概況は教区ホームページのシノドス対応調整チームバナーをクリックしてくださるとわかるようにしていますのでご覧ください。

「ネットひろば」開催中

「ネットひろば」は2022年公布『司教書』の『10のテーマ・30のチャレンジ』の具体化を推進するため、オンラインも活用しながら、5つのネットひろば「宣教ひろば」「平和ひろば」「多文化ひろば」「協働ひろば」「養成ひろば」において、互いの分かち合いの場を広げることが目的として開催され、どなたでも自由に参加できます。

既に2022年7月に「平和ひろば」、11月に「多文化ひろば」、12月に「協働ひろば」が各々1回ずつ開催され、1月に「養成ひろば」が開催されました。

これからも、不定期です



呉教会でのネットひろば

が小教区宛てに5つのネットひろばの開催案内が届きますので、皆さまのご参加をお待ちしております。（平和の使徒推進本部/シノドス対応調整チーム）

教区創立百周年記念行事 チャリティコンサート

11月6日と12月4日に、教区創立百周年記念行事の1つとして、チャリティコンサートが行なわれました。11月6日のコンサートは、「手話訳聖書の完成を祈って」日本聖書協会と共催で行なわれました。当日の会場には約200名の方が来場され、パイプオルガンをはじめとした様々な楽器や歌声に耳を傾けました。

12月4日のコンサートは、「ウクライナ人道支援チャリティコンサート」として行なわれました。こちらのコンサートには、170名の方が訪れてくださいました。コンサートの様子はどちらもYouTubeで、「広島教区 百周年記念行事」と検索すると出てきますので、是非ご視聴ください。

また、11月6日のコンサートの前には、エリザベト音楽大学において、記念行事関連のイベントとして、「聖書のことば 聖書とことば」と題した日本聖書協会主催のセミナーが開催されました。セミナーの様子は、コンサートと同様にYouTubeに、「聖書協会 セミナー 広島」と検索すると動画が出てきますので、こちらの動画も是非ご視聴ください。

そして、チャリティコンサート開催にあたり幟町教会の皆様には多くのご協力をいただきました。開場



11月6日のコンサートの様子（世界平和記念聖堂 聖歌隊席）

の時間の関係でミサ時間の調整をしていたり、コンサートの受付係をお手伝いいただいたりと、記念行事実行委員だけでは手の回りきらない部分を助けていただきました。ありがとうございました。

最後に、今回のチャリティコンサートにおいて、ご来場された皆様に多くの献金のご協力をいただきました。手話訳聖書完成のため、ウクライナ人道支援のため、そして、世界平和記念聖堂のオルガン維持のために、頂いた献金は使わせていただきます。皆様、支援のための協力、本当にありがとうございました。

「福音ひろば、これからです」

前号の教区報でもお知らせさせていたいただいた通り、「福音ひろば」（世代別オンラインサロン）が毎月第一週木曜日と第二週木曜日の午後8時より、それぞれ始まっています。

この「福音ひろば」は、オンラインで開催された

「2020教区代表者会議（教区シノドス）」に参加された信徒の方々から「引き続き、オンラインの分かち合いの場を作って欲しい」とのお声をいただき、その要望に応える形で動き出しました。

「18歳〜20代クラス」と「30代以上みんなクラス」の2クラスがあります。連続して出席しなければいけないようなことはなく、初めましても、とりあえずも大歓迎です。講義のような感じではありません。それぞれに日頃教会で感じていること、信仰生活で思っていることなどを分かち合います。テーマもあつたりなかったりしますし、お茶でも飲みながら、リラックスしてご参加くださればという感じです。ひとまず、百周年期間中（来年9月）を目処に月に一度開催していく予定です。すでに3回程、開催し「30代以上みんなクラス」は参加者が30代から70代までと幅広く、毎回10名〜15名前後の方々にご参加くださっています。

以下にご参加くださった皆様のお声をまとめました。「心の深いところを分かち合える。垣根がなく、普段はなかなかない、良い空間。」（50代女性）「普段から人の洗礼の経緯を聞くのが大好き。それを沢山聞くことが出来てうれしい」（50代男性）「自分の所属している教会は小さな教会

だが、それが自分は好き。福音ひろばに参加して広い世界を知れて良かった。」（70代女性）「普段離れた所にいる、様々な教会の人と一瞬にして集まることから来て良い。」（50代修道女）「気軽に話すことが出来て、また話を聞くことが出来る良い」（50代男性）

福音ひろばはパソコンを使って行う世代別のサロンです。先に行われた教区代表者会議はコロナ禍ということもあり、参加者すべてがオンラインでつながるという画期的なものでした。終了後、参加者からは「もっと意見交換をしたかった」、「また機会をつくって欲しい」などの声が多く聞かれました。それらの声に広島教区が応えるからスタートします。モニター越しではありますが、お互いにこころを聞いて交流し、それぞれの信仰生活の一助となれば幸いです。

Walk with you, feel with you.

スケジュール	お申し込み
毎月1日 木曜日 20:00 - 21:00	①お名前 ②年齢 ③所属教会 をご記入の上、メールでお申し込み下さい。後日、zoomの参加IDをお送りいたします。
第1水：18歳〜20代 (高校卒業後の18歳以上) on 10月6日	hsjc555@gmail.com (青年活動会本部/10代青少年情報センター)
第2木：30代以上 on 10月13日	※お申し込みは10月以降も 随時受け付けしております。

参加される方それぞれの情報が設定されると思いますが、なるべく多くの方に参加していただきたいと思っていますので、わからないことがあればお気軽にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先 TEL: 082-221-0664 青年活動会本部(10代青少年情報センター) 担当: 大原貴文神父

「話をしてみても、初めて分かる事がある。」(50代女性)「みなさんの話が聞けて良かった。」(40代女性)「実際にお会いしたくなかったので、今度伺います。」(30代男性)「同じ教会には同世代があまりいないので、離れていても、こうして仲間がいると思うと心強い」(30代女性)「もう大成功なのではw」(30代担当司祭)

「福音ひろば」は、これからです。イエスキリストを真中に据え、互いに心を開き、認め合いながら、より良いサロンになりますように。これをご覧の皆様もぜひ、次回の「福音ひろば」にお申し込みください。画面上でお会い出来ることを楽しみにしております。

(お申し込みは①お名前②年齢③所属教会を「記入の上、hsjc555@gmail.comまでメールでお申し込みください。)

(福音ひろば担当)

大西勇史神父)

66 海峡からの風

下関労働教育センターだより

2022年は下関労働教育センターにとって創立50周年という特別な年でした。コロナは労働教育センターにとっても変容の時となり、子どもとみんな食堂「ロクスビよりやま」や「キッチンカー・ロクス号」、いのちの関門ネットワークをはじめ、22年はその新しい活動の萌芽を目にする時間だったように思います。センターを訪れた人がまず気づく目に見える変化の一つは、センター前の一段降りたところにある駐車場でしょう。以前はただ砂利の部分は車の駐車に使用され、脇の方の雑草が生えたところは掘れば岩と石だらけの粘土質の地だった場所が生まれ変わりました。

2年ほど前から、何か作物ができないかとシャベルで巨大な穴を掘り、大小様々な岩と石を取り出すというのをこつこつ続けていました。昨年4月の黙想の時に植物園の庭園コーナーを散策しているときに何かインスピレーションが湧いてきました。掘り出した土を盛って、その上にマリア像を置いたらどうだろうか。帰ってきてスタッフの小

島さんに言うと、「それって古墳みたいでマリアさまが可哀想です」。そこで二人でどこにマリア像を置こうかという話になり、庭園づくりは私だけでなく、みんなの庭園づくりとなっていきました。夏には向日葵が咲き、かぼちゃも、秋にはさつま芋も収穫できました。

11月11日11時より、センターに白浜司教さまが訪れくださり、地区の神父さんたちとともに、50周年の記念ミサを捧げてくださいました。新しい神さまの夢を胎内に宿す、という意味を込め、福音の箇所はマリアの受胎告知を選びました。司教さまの説教はとても感動するものでした。「マリアは人々の誤解を恐れずに、神さまの指名を受け取りました。社会の問題に取り組むという使命も、人々から反対されたり、誤解されたりすることもあるかもしれませんが、神さまは必ず、よくやった、忠実な僕よ、と言ってくたさるでしょう。そして、マリアがエリザベトに会いに行なったように、労働教育センターもどうぞ出会い

の文化を育んでいく場となつてほしい。」司教さまがくださったメッセージはセンターの新しい使命を言い表してくれているように思えます。

そして、聖堂とあの庭に置かれた、この日をめがけるかのように到着した、美しい「結び目を解くマリア」の二つの像を司教さまが祝福してくれました。きっとこのマリアが、人々と社会の結び目を解いていく使命を担う船旅を守ってくれるでしょう。

マリアが見守る庭はガーデニングの手を待っています。そして少しずつ実をつけていくのです。神さまの夢を実現させていくということは、神さまの与えてくれた庭園をガーデニングしていくことなのだ、と今、思います。思い描き、耕し、種を蒔き、苗を植えていくならば、少しずつ実現していく。司教さまが示してくださった神さまと私たちの夢を、時間をかけながらガーデニングしていこうと思ふのです。

(中井 淳 神父)

J-CARM 広島便り

馬小屋づくりで 教会に貢献

近年、三篠教会の周りにベトナム人が増えて、教会のことにも少しずつ積極的に参加しています。2020年のクリスマスからベトナム人たちは三篠教会で馬小屋造りを始めました。実は毎年、来日前に多くのベトナム人の若者は故郷での教会や家などで、馬小屋を造っていたので、皆はクリスマスまでに馬小屋造りにワクワクしていました。今年の馬小屋は10月初旬から第1週と3週のミサの後に素材の準備をして担当者の振り分けなどを行いました。計画書や検討図がなく、私たち10人ぐらいは口頭で相談しながら作業します。



12月に入ったごろ、馬小屋の形ができて、ライト付け、飾りなども完了しました。像や飾りものなどは、日本の馬小屋とほとんど似ていますが、ベトナム風の馬小屋のイメージは高い山の形で、石窟があります。私たちは、ベトナムを離れてなかなか故国のクリスマスの雰囲気味わう機会がなかったが、教会の方々は外国人たちに心を配り、色々応援してもらってとても感動しました。



→三篠教会の馬小屋
↑三篠教会の前庭で馬小屋造りを行なったベトナムグループ

三篠教会での馬小屋造りをはじめ、私たちは広島教区に小さいことでも貢献したいなと思います。

三篠教会ベトナムグループ
トウ

聖書通読写経キャンペーン

完了者紹介 (敬称略)

◆新約聖書写経を完了された方◆

No.032 真野 佑子 岡山教会

◆旧聖書写経を完了された方◆

No.012 岩下 悦子 祇園教会

No.013 豊原 みどり 観音町教会

No.014 真野 佑子 岡山教会

No.015 竹本 順子 幟町教会

No.016 浜田 艶子 祇園教会

核なき世界基金

「核なき世界」推進のために、
3つの目的を支援する基金です。

皆様からの寄付金は、

おもに3つの目的を段階的に支援するために使用されます。

1. 「核兵器禁止条約」の批准拡大を後押しする活動の支援
2. 世界の核兵器由来の放射能被害者の支援と放射能汚染からの環境回復の支援
3. 核兵器廃棄を目指す活動の支援

支援方法などの詳細は下記のホームページをご覧ください。

<https://nuclear-free.net/> 電子メール : info@nuclear-free.net



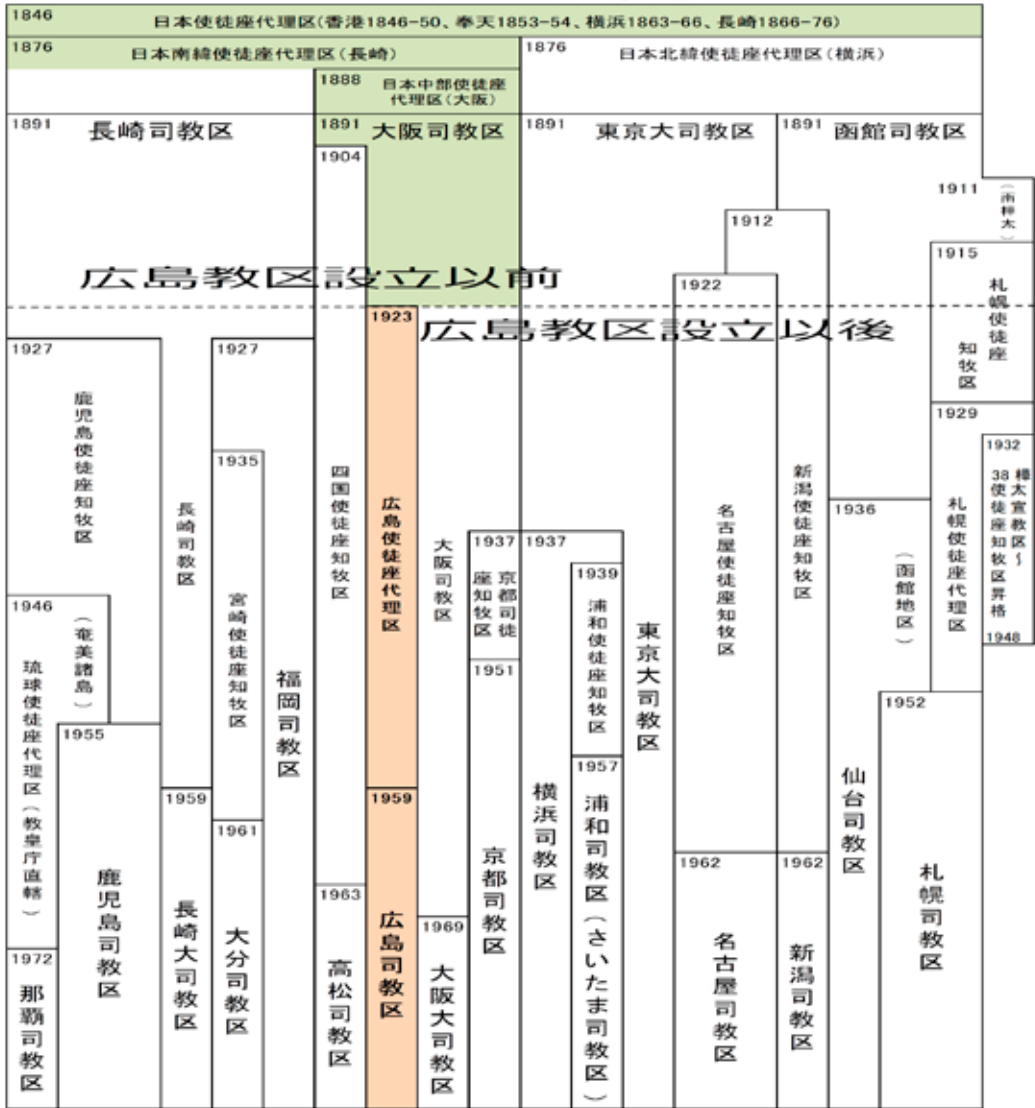
核なき世界基金

One Coin Net

Nuclear-Free World Foundation
LOGOMARK DESIGN : M.NOJIMA



日本の教区 区割り変遷図



広島教区百年の

歩みをたどる (四)

百年史(仮称)内に「年表」掲載を考えている。今回は1923年の教区創立までの話。

その中から少しの話題。(左の年表参照)

(1) 1846日本使徒座代理区が江戸末期禁教令下、日本再宣教を夢見て香港に設立。16年後、「パウロ三木と同志殉教者」

が列聖。ご存じの日本二十六聖人です。「日本二百五殉教者」がその5年後に列福。福者の中に教区内出身者が少なくとも3名含まれています。注又「浦上四番崩れ」で津和野等への流配も発生。

(2) 1876日本南緯使徒座代理区が(1)から分かれ、西日本に設立。明治も9年に。この後岡山(1880)を手始めに、

広島等中国地方で再宣教開始です。南緯の中心(代理区长館)は大阪です。なお、四国の松山・宇和島地方には、広島から一時宣教に出かけた。

(3) 1888日本中部使徒座代理区設立。(2)の内九州・沖縄以外。山口でも再宣教開始です。鳥取には兵庫県南(播磨地方)の神父が宣教に来訪。この頃は、外人神父も

天皇に対する忠誠や尊敬を示し、キリスト教への偏見を解くことによる腐心した。

(4) 1891大阪司教区に昇格。山口のヴィリオン神父

は、津和野流配地や日本最初の教会跡(山口の大道寺遺跡)の確認・発見に尽力。

日清を経て日露戦争に入ると、広島は司祭館等が兵舎に徴用。第一次世界大戦時には、松江の仏人神父が応召で帰国。

(5) 1923広島代牧区創立：これまでは大阪教区内全てパリ外国宣教会が司牧を担ってきたが、教区内が広大で司祭が少ない為、中国地方をイエズス会に移管することとした。インドで司牧していたイエズス会神父が、第一次世界大戦で祖国ドイツに帰国していたので、その後の宣教地に充てた。

教区长館は岡山に置かれた。聖堂は教区内で唯一洋風で正面がレンガ造りだった。これが広島教区の始まり物語。

ゴンサロ・フサイ(備前)、ファン中国(山口)、レオン中西(山口)の名前が載っています。

(教区百年史編纂委)

地区便り

伯雲協働体

永井隆博士を記念して 平和祈願ミサ

伯雲協働体では、
2022年11月23日
(水)、勤労感謝の日に島
根県雲南市三万屋町に去年
の2月に新しく竣工された
永井記念館で長崎教区、高
見三明名誉大司教と広島教



平和祈願ミサの様子 (永井隆記念館・雲南市)

この集まりは1984年
に第1回が開かれ
てから今回で39回
目に当たります。
記念講演では高
見名誉大司教か
ら、永井隆博士、
緑ご夫妻の列福へ
向けての取り組み
がまわっていること
をお聞きしまし
た。伯雲協働体で
もこの呼びかけに
呼応したいと思っ
ます。
(米子教会
都田 修史)



オンライン教会学校

2022年11月27日
(日)に、広島地区の子ど
もを対象とした「オンライ
ン教会学校」が開催されま
した。コロナ禍が続く中
で、オンラインで交流を図
ろうとZOOMを使用して
の行事が行なわれ、各小教
区や自宅でのご参加の方々
とも画面上で繋がり、合計
37名の子ども達(大人合計
33名)が集いました。白浜
司教様からの素敵なメッ
セージ動画からはじまり、
神学校生活の貴重な動画も
拝見することができ、子ど
も達も真剣な眼差しで見
ていました。沢山のお勉強が
できたあと、子ども達とみ
んなで一緒に歌を

広島地区

歌ったり、ゲーム
をしたりして楽し
んで、行事の終わ
りには神父様から
の祝福もいただけ
ました。神様のお
恵みの中で終えら
れたオンライン教
会学校は子ども達
の元気な声や笑顔
が見られ、この度

はじめの
試みであり
課題と成果
も様々あり
ましたが、
子ども達の
心の中にの
こしてくだ
さったもの
を神様の
大きな愛が包
んで下さ
り、経験を
糧として、
これからも
平和と希望
のうちに共
に成長する事ができますよ
うに。 神に感謝。



→オンライン教会学校、祇園
教会の様子

子どもミサ

信仰継承

〜神様に愛されている
から〜
来て見てごらん!
イエスさまの平和

日時: 2023年1月29日

(日) 11時30分〜13時

場所: 祇園教会

対象: 小学生・中学生(幼

児さんは保護者同伴)

内容: ワークショップ・ミ

サ

司式: 白浜満司教・三宅仁

孝神父

要申込

たくさんのご参加をお待
ちしています!



岡山鳥取地区

久々の鶴島巡礼

10月10日(月) スポーツの日、前日の大雨が綺麗に晴れて素晴らしい好天氣に恵まれました。お忙しい中、白浜司教様をはじめ兵庫教会、夙川教会、高砂教会、松江教会から多くの方々が参加してくださり感

謝と御礼を申し上げます。コロナ禍で3年ぶりの巡礼で参加者の方々に自己責任の範囲で参加者を募集したところ、司祭を含む124名参加してくださり150年祭として殉教記念ミサを捧げることができました。1867年に浦上地方を襲った悲劇、浦上四番崩れ



鶴島でのミサの様子

で3300人とも言われる多くの人々が名古屋以西に送られ、岡山藩へは117名が送られ、岡山で4人が亡くなり、鶴島では13人、17人の方が眠っております。ご存じのように、岩永マキさん家族も鶴島へ送られ1873年4月に解放され自由の身に、長崎へ

山口島根地区

教区合同召命祈りの集い

2022年10月21日(金)の午後、徳山教会で70名弱が参加した。最初にロザリオの祈りで召命のための恵みを願った。次に、東京カト

リック神学院所属で本教区の伊藤正広助祭による講演が行なわれた。広島市の幟町教会にあるパウロ書院に立ち寄ったことが受洗のきっかけになったこと、また多くの方々の奉仕と祈りに支えられて困難を乗り越える



伊藤正広 助祭 (徳山教会 聖堂)

ことができた。このことであつた。続いて山口神父から教区と教区内で活動する修道会等の神学生の現況報告があり、出席し

ていた神学生が、自己紹介を行なった。最後に白浜司教司式によるミサで集いを終えた。堅信や救しの秘跡は、信徒が授けることはできない。また、学校や病院、介護等の各種施設でも司祭やシスターが必要だが、現実には減少の一途である。召命増加のための地道で継続的な祈りと経済的援助である「一粒会」、「召命学校」等への御協力をお願いしたい。(細江教会 久保 俊夫)

帰ってからマキさんをリーダーに女部屋が出来、十字架はそのもととなった。姉妹会・現在のお告げのマリア修道会の会員たちが毎年鶴島を訪問しております。一日も早くコロナが終息し安心して巡礼が行なわれることを心より祈っております。

『あたらしい憲法のはなし』

一九四七年 文部省発行

平和アピール 1981 記念行事
—聖ヨハネ・パウロ二世来広記念—

日時：2022年 2月 19日 (日)
ミサ：9:30～ 世界平和記念聖堂
司式 日浜 満 司教
講話：11:00～12:30 多目的ホール
講師 原田 豊己 神父
カトリック中央協議会事務局次長
社会福音化推進部長 (資料代：200円)

● 2月25日(土)の行事
10:00～祈りの集い (平和記念公園慰霊碑前)
11:00～ミサ (世界平和記念聖堂地下聖堂)

主催：カトリック広島教区 広島地区平和推進チーム
共催：カトリック正義と平和広島協議会
広島市中区幟町 4-42 TEL:082-221-6017

青少年の活動

教区創立100周年記念グッズ

即売会の記録

青年のためにいつもお祈りいただき、ありがとうございます。

昨年9月より販売させていたでいております、

「教区創立百周年記念グッズ」。

米子教会にて行なわれた「開年ミサ」を皮切りに、早速、8つの小教区（三篠、東広島、岡山、鞆町、松江、観音町、祇園）、二つの行事（日本カトリック聴覚障害者の会、黙想会、パイプオルガンチャリティコンサート）からお声がけ



祇園教会での販売会にて

いただき、即売会に何合わせいただきました。青年との新たな出会いもあり、嬉しい機会に感謝しています。

多くの方に手に取っていただき、おかげさまで販売総数は、千点を超えました。今後も頑張つて販売して参りますので、引き続き応援とお祈りを、よろしく

↓松江教会での販売会にて



〈お問い合わせ〉
wyd2023.lisbon.dp@gmail.com
(WYD2023リスボン派遣プロジェクト)



福山・尾道教会助任

朴根培神父

「を通して」

私が働いている尾道教会のすぐ隣に尾道清心幼稚園があります。私は月に3回ほど幼稚園児のお

御堂会の時、子どもたちとイエス様について話を交わしています。お御堂会の時、私は時々「マリア様に祈ると、マリア様が皆さんの祈りをイエス様に伝えてくださるの



で、ぜひ祈つてみてください」と言つてあげたりしました。

尾道教会の聖堂入口にはマリア像があります。私の執務室の聖堂入口に向けた一面がすべてガラス窓なので、このガラス窓からマリア像を見る事ができます。ある日からマリア様の前で祈る幼稚園児たちが見え始めました。そして、その数はますます増えました。そして、今はマリア様の前で祈る子どもたちが多くなりました。そのように祈る子どもたちの姿を子どもたち

のお母さんとお父さんが後ろで見守っています。

私の執務室のガラス窓から見える、マリア様に祈る子どもたちの姿は様々です。マリア様の手を握つて

目を閉じて祈る子、マリア様の前で音を立てて祈る子、マリア様の手を握る子、マリア様の背が低く、マリア様の足を踏んでマリア様の手を握つて祈る子、マリア様を抱きしめて祈る子、お母さん、お父さんと一緒にマリア様の前で祈りたくてお母さんとお父さんをマリア様の前に導く子など。祈りを終えた後、ガラス窓から私を見ると、子どもたちは必ず笑顔で私に手を振つたり、私が聞けるように挨拶

をしたり、お母さんとお父さんの手を握つて一緒に挨拶をしたりします。

このように子どもたちがマリア様を通してイエス様に伝わる事を願う祈りの心は、私の執務室のガラス窓を通して私にも伝わりま

お願いいたします。
また、小教区へもたくさんお伺いしたいと思つております。よろしければ、主任神父様とご相談の上、お声がけいただけますと幸いです。

(企画室・益田なお)

Instagram
グッズ販売アカウント



教区創立百周年記念グッズのNEWアイテム「スウェット」の販売がスタートしました。小教区にお知らせをお送りしましたので、是非ご注文ください。